

■ 著者紹介

野村 佳絵子 (のむらかえこ)

1974年、滋賀県生まれ。龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程修了(社会学博士)。専門社会学調査士。専攻は、臨床社会学、社会統計学。龍谷大学助手、福井大学博士研究員を経て、現在、京都橘大学等で非常勤講師。

2001年に摂食障害の自助グループ「かなりあしょっぶ」を立ち上げ、2002年から「日本摂食障害ネットワーク」にたずさわる。また、2004年より米国「Academy for Eating Disorders」内の委員会メンバーとなり、現在は国内外の研究者や実践家たちとともに、予防・啓発活動を行っている。趣味は旅。

〔主 著〕

『かなりあしょっぶへ、ようこそ！——摂食障害がくれた宝物たち』(筒井書店、2008年)

『数学嫌いのための社会統計学』(法律文化社、2010年/分担執筆)

『薬物政策への新たな提言——ドラック・コートを越えて』(日本評論社、近刊/分担執筆)

渡邊 直樹 (わたなべなおき)

1943年、東京都生まれ。弘前大学医学部卒業(医学博士)。聖マリアンナ医科大学精神療法センター助教授として定年退職後、青森県立精神保健福祉センター所長、関西国際大学人間科学部教授を経て、現在、浅田病院に勤務。聖マリアンナ医科大学客員教授。

2001年より、食行動異常研究会 part-II 実行委員長に就任(代表は末松弘行氏)。現在年2回の定例会の他に、月1回の家族会を主宰している。趣味はラグビー。その他自殺予防活動にもかかわっている。

〔主 著〕

『バウムテスト』(川島書店、2002年/翻訳)

『自殺は予防できる』(すびか書房、2005年/編著)

『チーム医療としての摂食障害診療』(診断と治療社、2009年/編著)

『青春期精神医学』(診断と治療社、2010年/編著)